



Long goodbye\_水原一平



NYU 名誉芸術博士\_テイラー・スウィフト

来週 1 週間で 3 月も終わり、その割には冷たい強風の日が続いています。東京は明日桜の開花予想でしたが、もう少し先になりそうです。韓国ソウルの高尺スカイドームでのドジャース VS パドレスの 2 戦は、大谷対ダルビッシュ、松井、そして内容は残念だったものの山本由伸の先発と見どころ満載、久々に夜 11 時まで TV の前でシビれました。そんな中、大谷との名コンビの通訳水原一平さんが突然ドジャースを解雇されました。自身の賭博依存と大谷選手の口座から 6.8 億円を横領したとのこと。あまり詳しい情報は流れていませんが、二人とても仲が良さそうだったので残念です。なんか大谷選手の昨今の活躍に水を差すような出来事で、大谷選手のメンタル面への影響がないことを願っています。

一昨日、ロシアの首都モスクワ郊外のコンサートホールで銃撃のあと火災が起きたテロ事件で、捜査当局はこれまでに 143 人が死亡—多分まだかなり増えそう—したとのこと。会場には人気ロックバンド“ピクニック”—知りません！—の開演直前で 6000 人超の観客が集まっていて、地獄さながらのパニック状態に陥ったそうです。実行犯 4 人を含む 11 人を拘束されたとのこと、実行犯は全部で 6 人、うち 4 人は中央アジアのタジキスタン国籍。イスラム過激派組織 IS が“戦闘員がキリスト教徒の群衆を襲撃し、数百人を死傷させた”などとして犯行を認めています。プーチン大統領は国民に向けたビデオ演説で“野蛮なテロ攻撃だ”と激しく非難したうえで、ウクライナが関与していることも匂わせていますが、ウクライナ側はこれを否定しています。イカサマもどきの大統領選に圧勝したプーチン—2200 万票もの水増し—、反プーチンのロシア国民だって大勢いるはず、敵はウクライナばかりではなさそうです。

近頃、卒業式シーズンからか、高円寺駅前にはおめかしをした大勢の女子学生たちの笑顔と歓声に満ち溢れています。平和ボケといわれようが、やはりこんな時間がずっと流れてほしいと願います。昨日の東京新聞に米国のシンガーソングライターのテイラー・スウィフトさんが、2022年にニューヨーク大学の卒業式でのスピーチが載っていました。彼女は10代前半で歌手デビューしたため、高校にもまともに通えなかったようですが、ニューヨーク大では彼女に“名誉芸術博士号”を授与し、その記念にヤンキースタジアムの卒業式に招かれてスピーチしたとのこと。言葉のひとつひとつが彼女の詞の世界を彷彿とさせるような内容でステキだなと感じました。

「努力することを決して恥じないで」(要旨) 3月23日付

米ニューヨーク大卒業式祝辞 2022年5月

テイラー・スウィフト — 歌手 —

私たちは誰一人として、きょう一人でここに立てているわけではありません。私たちを愛し、未来を信じてくれた人たち、共感と優しさを示してくれた人たち、聞きづらくとも正しいことを言ってくれた人たちとのパッチワークで存在しています。もし彼らがこの式にいるなら、私たちを共通の目的地に導いてくれた全ての歩みと失敗に感謝の意を表してほしい。

私は普通の大学生活を送ることができませんでした。高校まで通い、その後は空港のターミナルの床で宿題をしながら教育を終えました。子どものころ、私はいつも大学へ行くことを考え、新入生寮の壁にどんなポスターを貼るか想像していました。

私が普通の大学生活を送れなかったことに文句を言いたいのではありません。あなただって(新型コロナウイルスの)パンデミック(世界的大流行)の最中に大学に来て、基本的に寮に閉じ込められた。あなたも私も、人生という箱の中にメニューから選んだものを全て手に入れ、運んでもらえるわけではないことを学びました。あなたは、あなたが得たものを得るのです。

いくつかライフハックを紹介しましょう。人生はとても重たい。成長し新しい章に進むためにはキャッチ・アンド・リリース、残すべきものと手放すべきものを見極めることです。ある有害な人間関係が、たくさんの素晴らしい、シンプルな喜びを凌駕することがある。あなたは自分の人生のための時間と余裕を選べます。見極めることです。

私は物事に対する熱意を隠しません。私たちの文化の中に、熱望することはクールではないという誤ったスティグマ(否定的な意義づけ)がある。でもここでしゃべっているのは私。だから聞いてほしい。努力することを決して恥じないで。努力しないなんて神話。

私は12歳のときに曲を書き始めました。以来、曲は人生を導く羅針盤となり、私の人生が私の曲を導きました。私は10代で世間の注目を浴び、若い女性のロールモデルとなりました。でも私が失敗したらすべて私の責任になり、私は永遠にポップスターの刑務所に入ることになる。しかし、私の経験では失敗が人生で最高のものをもたらしました。

ノーと言われたこと、仲間に入れてもらえなかったこと、勝てなかったこと…。振り返れば、それらは「イエス」といわれた瞬間よりも重要だったように感じます。

今あなたは学校という組織や枠組みを離れ、自分の道を歩みます。どの道を選べばいいか難しいときもあります。どうアドバイスしたらいいか。私はしません。

怖いニュースですが、あなたはこれから自分自身で生きるのです。クールなニュースとしては、あなたはもう自分自身として生きているのです。

私はこれをあなたに残します。私たちは直観、欲望、恐怖、夢に導かれます。あなたは時々めっちゃくちゃになるでしょう。私もそうです。とにかく…。つらいことが起きる。私たちは立ち直る。そこから学ぶ。そのおかげで私たちは成長するのです。

今日という非を共有できることを誇りに思います。私たちは一緒です。だから踊り続けましょう。2022年の卒業生として。

彼女は現在 34 歳、すでに 400 億円近くを稼いでいるとのこと、今年 2 月の東京公演では 4 日間で 22 万人の観客を動員したそうです。“失敗が人生で最高のものをもたらした”…実に名言。彼女にはアンチトランプの旗頭として今年の米大統領選でも表舞台に立ち、バイデンを勝利に導いてくれることを期待しています。日本の政治屋にもこれくらいの肝っ玉が据わったヤツがないもんかねえ〜、ああ、情けなや。

そのトランプいじりの東京新聞“本音のコラム”北丸雄二さんの論評です。

善意と真実の行方 3月22日付

北丸 雄二 — ジャーナリスト —

かつて「僕が真実を口にすると、ほとんど全世界を凍らせるだろう」という“妄想”を語った詩人がいた。今、みんなが口々に“真実”を語り始め、世界は凍るどころかバラバラに見える▼「話さないことが美德」という日本とは逆に「話すことが美德」とされる米国社会ではなおのこと「分断」が叫ばれる。けれど、それは元々あった分断が SNS によって表面化したという見かけの変化だ。その表面化が互いの言葉の応酬を煽り、対立と分断を拡大深化させている▼トランプによる米国の分断は、従来のマスメディアのフィルターで遮られていた嘘が SNS に出口を見出し横溢し、互いを補強し合った結果だ。そのトランプは自らの嘘で 700 億円近い裁判補償が払えず、週明けにはトランプタワーやフロリダの邸宅差し押さえの憂き目に直面する▼ただ、嘘にも報酬もある。ユーチューブや X では現在、耳目を集める煽り投稿で閲覧が増えればカネが稼げる。「アイヌ差別は存在しない」と煽る杉田水脈などはネットウヨ票も稼げる。裏金すら還付金と言い張る自民党は悪貨だろうが差別票だろうが気にしない▼良貨は悪貨を、善意は悪意をいつか駆逐できるだろうか。真実は、捏造真実の信者たちをやがて凍らせ得るだろうか。その時まで、善意と真実とをひたすら示すしかないだろうが。

トランプはいくつかの裁判の訴訟費用が膨れ上がっていて、手元資金が枯渇状態のようです。選挙資金で共和党員から集めたカネまで投入しているとのことで、いざ戦いという時点で、バンザイしてくれることを個人的には大いに期待しています。

イスラエルとハマスの戦闘はどちらも相譲らず、戦場がガザ南部の難民キャンプにまで及び、多くの子どもや女性を含む市民にさらに大勢の犠牲者が出でいます。食糧支援も十分に届かず、飢餓状態も深刻になっています。ヒトラーが指揮を執ったユダヤ人狩りとなんら変わることはない状況です。欧米は、イスラエルを批難してはいるものの、イスラエル建国当時のことを考えると、どちらかというイスラエル寄り、ウクライナ支援とはちょっと毛色の異なります。東京新聞“本音のコラム”師岡カーリーナさんからのメッセージです。

買わない力 3月23日付

師岡 カーリーマ — 文筆家 —

世界的に人気のコーヒーチェーン、スターバックス。中東・北アフリカでも店舗数は1900に上るが、ここ数ヶ月で売り上げは激減、今月2千人の解雇が発表された。実は以前からスタバはイスラエルとの関係が指摘され、占領と人権侵害に加担しているとして、不買運動の対象になってきた。スタバは再三イスラエルとの関係を否定するも汚名払拭ならず、ガザが飢饉寸前と報じられる中、イスラム世界でスタバ離れが進んで企業価値は一時、100億ドル以上、下落した。

BDS(イスラエルと関連ある企業を対象とする不買運動)を、国際人権団体アムネスティは平和的な人権運動と認めている(なおスタバは、BDSに掲載されている不買リストには含まれていない)。その一方で、BDSに対する反発は欧米を中心に根強い。米国政府は不買運動を「ユダヤ人差別」と呼んで制裁の可能性も示唆もイスラエル本国や支援団体も、純粋な「反イスラエル」感情の拡大よりBDSの方をはるかに警戒している印象さえある。それは「買わない」という消費者の決断が、利益優先の世界において、いかに大きな力を持つかを物語る。かつてアパルトヘイト廃止にも貢献した。社会に変化をもたらす意味では、選挙で投じる一票に勝るとも劣らないのかもしれない。正しく使いたい。

日本はどっちつかずの傍観者、まさに“米国のポチ”状態、どうしていいのかわからず、岸田さんは紛争終了後のウクライナ再建にカネを出すみたいなのを言ってますが、まずは紛争を終わらせる行動が先。もし紛争が終わったとしても、その頃には岸田さんは“ただの人”かも？ミャンマーへの支援だって、クーデターを起こす前からいまだに軍部に対して資金提供しています。アウン・サウン・スーチーさんに手を差し伸べたことなどありません。もういい加減にしたらどうですか。

コロナ禍が一段落したら、今度は“はしか”のパンデミックになっています。ヨーロッパでは前年比の30倍超の症例が確認されているそうです。僕たちの世代はワクチンを打ってないけど、幼稚園に入る頃にはしかに感染して終生免疫なるものを得ています。そこに今度はA群“溶連菌”なるものが流行り出し、新たな微生物との闘いが始まっています。ヒトは“単細胞”の頭脳には勝てない、滅びの予兆の始まり、始まり…。